

## 2015年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

|      |      |    |    |
|------|------|----|----|
| 所属   | 文学部  | 身分 | 教授 |
| 氏名   | 榎本泰子 |    |    |
| NAME |      |    |    |

## 1. 研究課題

（和文）東アジア近代都市文化の比較研究

（英文）

## 2. 研究期間

2年間

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究は、日本・中国・朝鮮半島など東アジアの諸都市を対象とし、主に20世紀前半に欧米の影響のもとで発達した都市文化を比較検討しようとするものである。これまでの上海の租界文化に対する研究実績の上に、ソウル、台北などの植民都市をも考察の対象に加えることを目指し、特に劇場文化（建築＝ハード面、公演＝ソフト面）に焦点を当てて現地調査を行った。

上海では、租界時代の文化・社会活動を、今日のグローバル化の先駆けとして位置づける傾向が強く、代表的な建築は観光資源として積極的に利用されている。新聞・雑誌等の一次資料に基づく公演記録の精査も進んでいる。それとは対照的に、ソウルでは植民地時代の劇場や公会堂は改修が進み、その由来や起源はほとんど知られていない。植民地時代の文化・芸術活動を「モダニズム文化」として世界的な流れの中に位置づけることは、韓国国内では一部の学者が行っているに過ぎない。一方台北では、21世紀に入って中国との関係が悪化すると、相対的に日本の植民地時代への回顧が進み、歴史的遺構を保存する活動が盛んになっている。

以上は本研究の過程でわかった現状であるが、とりわけ言語の違いが壁となって、20世紀前半の文化状況を日中韓で同時並行的に把握しようとする試みは、まだ緒に就いたばかりと言わざるを得ない。劇場文化は、公演者（劇団やアーティスト）の移動や興行主のネットワークの存在から、文化事象の中でも越境的な要素が強いため、今後も継続的な研究に値する課題である。

（英文）